

平成30年度 自己点検・自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.3.0 準拠版)

令和元年5月1日現在

学校法人ホンダ学園
ホンダテクニカルカレッジ関東

令和元年5月1日 作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	4	基準 4 教育成果	28
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか.....	5	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか.....	29
1-2 学校の特色は何か.....	6	4-20 資格取得率の向上が図られているか.....	30
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	7	4-21 退学率の低減が図られているか.....	31
基準 2 学校運営	8	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか.....	32
2-4 運営方針は定められているか.....	9	5-23 就職に関する体制は整備されているか.....	34
2-5 事業計画は定められているか.....	10	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか.....	35
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか.....	11	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか.....	36
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	12	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか.....	37
2-8 意思決定システムは確立されているか.....	14	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか.....	38
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか.....	15	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	39
基準 3 教育活動	16	5-29 保護者と適切に連携しているか.....	40
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか.....	17	5-30 卒業生への支援体制はあるか.....	41
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか.....	18	基準 6 教育環境	42
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	19	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	43
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか.....	20	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	44
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか.....	21	6-33 防災に対する体制は整備されているか.....	45
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	22	基準 7 学生の募集と受け入れ	47
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	23	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか.....	48
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	26	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	49
3-18 資格取得の指導体制はあるか.....	27	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	50
		7-37 学納金は妥当なものとなっているか.....	51

基準 8	財務	52
8-38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	53
8-39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	54
8-40	財務について会計監査が適正に行われているか	55
8-41	財務情報公開の体制整備はできているか	56
基準 9	法令等の遵守	57
9-42	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	58
9-43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	59
9-44	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	60
9-45	自己点検・自己評価結果を公開しているか	61
基準 10	社会貢献	62
10-46	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	63
10-47	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	65

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>建学の志 ホンダ学園は世界に歓迎される人間の育成を使命とする。</p> <p>学園の目的 チャレンジ精神に溢れ、人に愛され信頼される技術者を育成する。</p> <p>育成方針 社会に歓迎される為の・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・マナーとマインドを磨く ・実践第一の技術力を学びとる ・社会貢献の心と行動力を育む </p> <p>ホンダらしさに溢れ、環境変化に強い学校経営の実現</p>	<p>【平成30年度方針】</p> <p>本学園では学校経営の根本である「建学の精神」の原点に立ち戻り、「世界に歓迎される人材の育成と環境変化に強いホンダらしい学校経営の実現」を中期目標と定めて有為な人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>18才人口の減少、大学進学率の上昇、整備士志望者の減少などにより経営環境の厳しさが増す一方で、ゆとり教育の影響による基礎学力や学習意欲の低下、目的意識の希薄化など若者の成長過程も年々変化しており、益々高度化する自動車技術に対応出来て社会から歓迎される人材を輩出するための教育現場での課題は大きい。</p> <p>成長の基盤が脆弱な若者を導きながら、社会に歓迎される人間の育成に全力を注ぐことを「志」に置き、学生個々と向き合い、その成長と自立をサポートする教育の充実を推し進める。同時に、その教育内容と成果を積極的に対外発信し、選ばれる学園となることを目指す。</p> <p>このため本年度より、下記に示す「新たな中期計画（3ヶ年）」を定め、その実現に取り組む。</p> <p>【選ばれる学園の確立】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生・保護者に選ばれる学園の確立 2. 企業に選ばれる学園の確立 3. 選ばれるための基盤づくり <p>また、重要性に鑑み、以下の4項目を主要関心項目として取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生数の確保と質の向上 ②他校に先駆けた教育カリキュラムの進化 ③退学者の削減 ④国家整備士資格合格率 100%の達成 ⑤学園基盤づくりのための「人施策」の実行と働き方の見直し

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	経営環境の変化に追従した内容の中期計画を作成し、進捗状況と課題等を計画に沿って検証する。	明確に定められている。	課題なし	学校法人ホンダ学園 事業報告書
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	進捗状況を定期的にチェックする。	今年新たな中期経営計画を定めその中期計画に沿った活動を実施している。	課題なし	カレッジガイド シラバス
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	特に外部環境における事柄についてはその都度見直しをかける。	毎年、年度末には計画が適切であったかをチェックしている。また、結果により改善や見直しが行われている。	学校主体の社会貢献活動は実施されているものの、自発的な社会貢献活動に結びつくための教育を目指す。	カレッジガイド シラバス
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学校運営の基本的な考え方を示すもので、教職員及び外部にも周知する。	理念・目的・育成人材像等は、教職員及び外部にも周知されている。(ホームページ等に記載)	課題なし	カレッジガイド シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
新たな中期経営計画を核として、年初に教職員に対して共有化を行い、計画的に実行されている。	

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

嶋津 和真

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	【建学の志】を原点にホンダの持つ資源（Honda Cars の最新の取組み・Honda 最新技術・開発手法）を活用して知識と技術を提供できる教育環境を構築する。	特色＝差別化と考えている。 他のメーカー校では出来ない特色（二輪車教育）＝ホンダでしか出来ない教育を行う。 特に、自動車研究開発科の取組みでは、モノ造りのプロセスを実践的に学ぶ教育を実施している。	二輪車教育の優位性が薄れてきており、メーカー校ならではの最新技術教育を発展させて行く。そのための最新車両を本田技研工業㈱の協力を得て確保する。	カレッジガイド ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
豊富な種類の教材によりメーカー校の優位さを強調している。 また、一級自動車研究開発学科の特色を広く発信して、高校への認知度の向上を図っている。	人としての基礎・基本（マナーなど）を徹底的に体得させ、企業から期待される人材を育成する事を目指している。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	学校の将来構想は、中期3年計画により立案・計画・実行する。	中期経営計画を作成(平成30年度から令和2年度までの3年間)とし、各年度の事業計画に基づき実施している。	環境変化への対応等が必要。	学校法人ホンダ学園 事業報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>18才人口の減少や大学全入、若者のクルマ離れなどの影響により、整備士や技術者を志す学生が年々減少している。</p> <p>本学園においては、学生数の減少により財務状況が悪化しており、その改善が急務である。また、今後一層経営環境が厳しくなる状況に対応するための改革が求められている。</p> <p>本学園では、今年度より経営改革の道筋をつける新たな中期3ヶ年計画を構築し、「選ばれる学園の確立」を目的に全教職員が一丸となってこれに取り組んでいる。学生個々の自立を支援し、また、企業ニーズに合致する質の高い教育を提供しつつ、学生数の減少に見合う効率的かつスリムな学校運営活動の実現を目指す。</p>	<p>中期計画の方針</p> <p>【選ばれる学園の確立】</p> <p>①学生/保護者に選ばれる学園の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学率100%の達成 ・退学率3%以下の達成 ・必須資格合格率100%の達成 ・競合他校に先駆けたカリキュラムの進化 ・修学環境の整備と充実 <p>②企業に選ばれる学園の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ニーズに基づく輩出学生の質の向上 ・企業ニーズに基づく輩出学生数の確保 <p>③選ばれるための基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の質（研修の充実）と活力（プロ意識改革）の向上 ・働き方の見直し（教職員としての労働環境の構築） ・カレッジガバナンスの質の向上 ・他校に先駆けたITの進化 ・中期人施策の企画と実行

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	建学の志、学園の目的に基づき、年度の運営方針を明確に定める。	年度初めに方針と目標を明確に定めている。	課題なし	学校方針
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	年度初めに説明を行う。	年度初めに方針と目標を明確に説明している。	課題なし	学校方針
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	学校経営に必要な各種諸規定を整備する。	各種諸規定は整備されている。学校経営は監督官庁の下に営んでいるので、常に各種規定に必要な最新情報に注視している。	課題なし	組織役割・事務分掌、学則、細則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確に定められている。運用についてもスムーズに展開できている。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	学校経営を円滑に営むために、事業計画を定める。	年度における事業計画は年度初めに定め、必要な部門に説明している。	課題なし	学校方針
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	事業計画作成時に実行計画及び予算計画を示し運営する。	事業計画、実行計画及びそれに基づく予算計画を年度初めに定め、必要な部門に説明し進捗を管理している。	課題なし	学校方針

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	学園全体の運営組織図を活用し、業務を組織的にスムーズに遂行する。	学園組織運営図は、法人本部にて月初めに改廃をし、最新版にしている。教務での役割を示した運営組織図を期初に改定し、運営している。	課題なし	ホンダ学園組織図 役割担当表
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	運営組織や意思決定機能は、よりシンプルなものとし、学校の目的、目標を達成するために迅速かつ的確な行動が取れるものとする。	ジョブローテーションによる育成と教職員の適材適所への配置を行っている。	課題なし	↑
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	教職員の役責を職務分掌で、明確に示すこと。	職務分掌と責任は明確になっている。	課題なし	↑ 組織役割・事務分掌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織図を提示することにより、各自の役割が明確になっている。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	監督官庁から示された定員学生数に対応できる教員の人数を十分に確保する。	現状の定員数に対する教員の人数は確保されていないが、実学生数に対する教員は十分に確保している。	課題なし	国交省一種養成基準書
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	人事考課は、本田技研工業㈱労働協約適用人として進めている。	課題なし	
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	昇進・昇格は、本田技研工業㈱労働協約適用人として進めている。	課題なし	
2-7-12 賃金制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	賃金制度は、本田技研工業㈱労働契約適用人として進めている。	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-13 採用制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	教職員の採用は、本田技研工業㈱労働協約適用法人として進めている。	課題なし	ホンダ学園組織図
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	教職員の状況を常に把握しておく。	常務理事会で情報共有している。	課題なし	ホンダ学園組織図

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本田技研工業㈱労働協約適用法人として、運営している。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-8-15 意思決定のシステムは確立されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会を運営する。 両校では、部課長会、教育会義、リーダー会議で意思決定する。	年3回の理事会・評議員会と月1回の常務理事会を開催している。 両校では週1回の部課長会、隔週1回のリーダー会議と必要に応じた教育会議が運営されている。	課題なし	ホンダ学園 運営規程
2-8-16 意思決定のプロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会を制度化する。	定期開催をしている。	課題なし	ホンダ学園 運営規程
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	理事長を最終決定者として理事会・評議員会を運営し、常務理事を運営意志決定機関の決定者として常務理事会を運営する。	定期開催をしている。	課題なし	ホンダ学園 寄附行為 ホンダ学園 運営規程

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
必要な会議を定期的で開催しており、意思決定システムは効果的に運営されている。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	学園独自システム（学事と財務）と Honda グループのシステムを併用し運用する。	学事システム、財務システム、Notes データベース、出張外出システムを活用している。	学事システム、財務システムはあるものの、将来を見据えた更なる効率化が必要。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

基準 3 教育活動

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>創設者である本田宗一郎が掲げた「世界に歓迎される人間の育成」を基本に、「マナーとマインドを磨く」「実践第一の技術力を学びとる」「社会貢献の心と行動力を育む」という育成方針に基づき教育を行っている。</p> <p>最近時、明確で強い動機を持って入学する学生が減少しており、さらに、困難なことを避ける傾向でもあるため、早期に進路変更に至ってしまう学生も少なくないことから、自動車業界に就く意識の醸成が重要かつ急務である。</p> <p>また、学生の高卒者の基礎学力低下傾向は強まる方向であることから、学生個々の実力把握と弱点補強が欠かせなくなっている。</p> <p>同様に、新入生における留学生が、大幅に増加しており、その留学生が満足に学生生活を送れるように、対応を強化する必要がある。</p> <p>上記のような学生を、卒業後即戦力となり得る、世界に歓迎される人材とするため、教職員全力で日々の教育活動に取り組んでいる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学前教育（入学予定者への事前教育） 多様な進路からの進学を考慮して、学力向上を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎学力不足から不安を感じる学生対象 入学後に必要な物理、数学の通信教育提供 ② 入学後の3年次・海外留学コース希望の為の英語力の向上を目指す。TOEIC 400点突破講座の設定。 (2019年度入学生：70名受講実績) 2. 入学前イベント <ol style="list-style-type: none"> ① 自動車への興味喚起のため、自動車に触れ、乗り、楽しむ機会の提供。基本全員参加。カート場での耐久レース。 (2019年度入学生：出席182名実績) 3. 留学生対象にプロジェクト体制によるフォロー。 <ol style="list-style-type: none"> ① 定期的に留学生の交流会開催 ② 入学後の日本語N1・N2試験費用サポート。 ③ 実用マナー検定準3級試験費用サポート。 ④ 就職先と連動した就学ビザ習得サポート。 4. 企業ニーズに則したカリキュラム <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業生企業CS調査を行い、企業のニーズに即した授業実施 ② 業界団体、及び関連企業の委員で組織する「教育課程編成委員会」からの提言を取り入れたカリキュラム編成 5. 教員指導力向上 <ol style="list-style-type: none"> ① 各種資格取得推進（一級自動車整備士資格等） ② 外部研修受講推進（JAMCA研修・埼玉専修学校教員研修会等） ③ 外部講師による学生心理理解（心理学講義等） ④ 教育単元・学年間ジョブローテーション

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	卒業生就職先の満足度向上を図る	概ね高い評価を得ているが、さらに弱点、及び強化項目の把握と対応策検討と実施	就職先により、評価が異なることがある 安定的に高評価となるよう、カリキュラムの見直し、および教員の指導力強化を図る	企業CS調査資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自動車整備系二級課程においては、国家試験合格率は毎年ほぼ100%であり、企業ニーズは満たしていると考え。しかし、就職直後のマインド面が弱点であり、強化が必要。特に、CS評価の弱点から対応策を検討する。</p> <p>一級課程においては、近年100%近く合格を継続できる指導方法構築してきたが、試験難易度が高くなるとともに、合格率が大きく低下した。今年度は86%と改善されたものの、100%合格とはならなかった。</p>	<p>国家試験合格率向上および合格率100%の継続のため、関西校との協力によるプロジェクト推進。</p> <p>特に1級は、インターンシップ時期の見直しを行うなど、新しい施策を実施したが、引き続き下記施策の実施を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 低レベル者を早期に見極め、個別のレベル向上対応実施（基本復習） 2) 学生個々のレベルに応じ、細やかな管理と指導を行う 3) モチベーション低下を防止する学習方法の検討、実施 <p>これらの実施により100%合格を目指す。</p> <p>その他企業ニーズへの対応については、CS評価結果から見えた弱点を、31年度から随時対応を図っていく。</p>

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	自動車整備系全科においては、国土交通省基準の教育科目の設定があり、卒業時には全科目基準以上のレベルとなるためのカリキュラムとする。 開発・設計工学コースにおいては、企業ニーズを満たしたカリキュラムとする	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備系 自動車も電子制御化が進んでいることから、エンジン・シャシの2単元制とし、電子制御も含めた総合的なカリキュラムとし、一級課程では故障診断の授業を強化していく。 ・開発・設計学科コース 自動車整備の基本を学んだ後に、開発・設計に関する知識を学ぶ事で、より理解度を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備系 学生の基礎学力、意欲低下が問題であり、特に1年生の指導方法の強化が必要である。2年間で確実に実力をつけるカリキュラム策定が急務である ・開発・設計学科コース 産学協同の一環として、企業様に授業をお願いしている。また現場で必要なスキル（制御系）を2019年度から授業に取込む。 	進級卒業認定資料 指導記録 指導要領

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車の電動化及び電子制御化が進む中、卒業後、HEV、EVなどにも十分に対応可能な人材とすべく、電気（電子）に関し、分かりやすい授業を追求している。 開発・設計学科コースにおいては企業ニーズを反映し、昨年度ホンダテクノロジー様にご協力頂き、今年度からMATLABを授業に取組む。	中高で物理を学ばずに入学した学生も多数おり、電子制御の基本を理解するのもかなりの努力を要する学生も少なくない。自動車整備系学科は、1年次当初から電気に関する授業を行っているが、理解し易い内容に見直しを行っている。開発・設計学科コースでは、授業の中で基礎物理を必須科目としている。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	各科修業年限を基準とし、卒業までに目標達成可能なカリキュラムとするため、各学年の目標を明確にする。	各科、学年毎の育成目標の明示 新学期開始時、学生個々に前年を振り返り、目標に到達しているかを各自確認させている。	課題なし	指導要領
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	企業満足度調査結果から、低満足度項目の改善のための施策をカリキュラムに反映する	企業満足度調査の中で、卒業生評価と同時に、当校に求める教育内容を確認している。 また教育課程編成委員会での意見、提言も反映している	課題なし	企業CS調査結果報告 教育課程編成委員会議事録
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	毎年組織図、及び役務を明確化する	学年主任と単元リーダーおよびサブリーダーを中心に各学年編成を行っている。	課題なし	組織図 教務役割表
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	基本科、学年、単元毎に毎年確認、見直し	前年度末に各科、各学年、単元内で見直しを行っている。大改定は部、課、科全体で協議決定する。	課題なし	指導要領 シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車整備系カリキュラムの基本となるものは国土交通省の科目設定であるが、その中で企業と学生が欲する内容とするため、毎年内容の再検討を行っている。その結果、新機構、新技術など必要なものは都度変更している。開発・設計学科コースカリキュラムについては、企業ニーズに基づき改定を行っている。	自動車整備系においてはHonda車を基本としたカリキュラムとなっている。 開発・設計学科コースにおいては、専用のカリキュラムとなっている。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	すべて適正な位置づけであるよう適時確認見直しをする	学則、育成目標と照らし合わせ、確認している	課題なし	指導要領
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	毎年シラバス、または指導要領を作成する	共有サーバーに保存、教職員誰もが閲覧可能としている	課題なし	指導要領
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	コマシラバス、または1時限毎の指導要領を作成する	共有サーバーに保存、教職員誰もが閲覧可能としている	課題なし	指導要領

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文書管理規定が不明確であるため、シラバス、指導要領を閲覧する場合、保管場所が分かりにくかった。今年度見直し文書管理規定に基づき、見直しを実施した。 公表できるシラバス作成も推進中。	自動車整備系と開発エンジニア系のカリキュラム、時間構成等が大きく異なるため、フォーマット（シラバス、指導要領）も異なっている。 また新学科設立により、見直しを実施している。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	入学当初から自動車業界へ就くための意識醸成を実施 卒業後即戦力となるための業界関連教育	入学直後から卒業生の講話やディスカッションを実施 自動車業界の情報提供 社会人講師による授業・工場、販社見学・HGを始め各種インターンシップを実施	課題なし	
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	企業満足度を高める	卒業半年経過後、就職先企業に満足度調査を実施 企業実習、インターンシップによる意見を反映	課題なし	企業CS調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
技術だけでなく、マナーとマインドを持った人材とするため、専門科目以外に「接客実務」「安全運転」等の一般科目に加え、社会的弱者に対する考え方を学ぶ機会も設け、実施している。	「安全運転」は外部の専門機関による教育を行っている。但し重傷事故も発生している事から、学生に対する安全運転の啓蒙活動の強化も実施。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	学生アンケート実施	各授業単位終了後、学生によるアンケートを実施	課題なし	学生アンケート
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	授業聴講し、アドバイス、または評価を行う	現状特に決まったものはない	聴講アドバイスシート、評価シート等を作成し、体制構築を図る	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科で方法は異なるが、学生アンケートは実施している。学校、部、課としての評価体制は未完である。	科、単元、学年などにより、アンケート結果に対する対応にバラつきがある。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備系 国土交通省基準を満たす者を専任 開発・設計学科コース コース内容に合わせて専門性を重視 	確保出来ている	課題なし 但し、今後の学生増加に対応出来る、教員確保の計画が必要	組織図
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備系 国家資格2級以上保有 実務経験3年以上 開発・設計学科コース 各コースにおける専門性を有している 	十分対応している	課題なし	教育を行う者の名簿
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	職員個々の経歴、資格等の適切管理	教育を行う者の名簿として、各種経歴と資格を管理している	課題なし	教育を行う者の名簿
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備系 一級資格保有者増員 開発・設計学科コース 複数科目担当可能化 	基本自己啓発としているが、勉強会、勉強資料等を提供している 聴講、自己研究など	課題なし 但し、近年一級整備士資格を取得した教職員がいない。勉強会などの機会を増やす	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	授業内容評価、アドバイス実施	単元、学年で相互に確認、アドバイスをやっている	校長、教頭による授業評価導入	
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	教員相互聴講 外部セミナー等の受講	自動車整備系 自動車専門学校協会主催研修 埼玉県学事課主催教員研修	教員相互の聴講とアドバイス 指導専任教員の配置 適切な外部講習等の受講推進	教員研修実績表
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	学生指導時間確保のための授業担当時間調整	学年毎に適切に協業出来ている	課題なし	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	非常勤講師間での協業強化	現状は担当教科も異なることから出来ていない	必要に応じて相互に情報共有を推進	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備系 国交省基準に則していること ・開発・設計学科コース 科目に必要な専門性を有していること 	明確になっている。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
基本当校OB、Honda OB、およびHondaディーラー経験者を採用しているが、適材がない場合は外部（他校講師経験者等）からの採用も検討する。	嘱託、臨時、非常勤を除く全員がHondaからの採用である 前年度から現場経験（ディーラー及び他校教員）の豊富な、嘱託契約教員の採用を進めている（30年度採用実績：2名）

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	学則、試験規程に従った評価、及び単位認定を行う	学則、試験規程に基づき、適切に評価、認定を行っている。	課題なし	学則・細則 試験規程
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	大学の単位変換を基本とする	当校は90分単位の授業であるが、50分単位に変換後大学の単位変換基準に基づき算出している	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
すべての科目は学則、規程に基づき、評価、認定している。 評価基準、認定基準共、全員が把握している	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	・自動車整備系 国家整備士資格 1級・2級	明確に定められている	課題なし	
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	すべての試験において 100%合格	日々の教育の中で、資格試験合格に必要な内容を網羅している 特に自動車整備系学科においては登録試験プロジェクトにて集中的にサポートしている	一級自動車整備士資格の合格率100%が未達である。登録試験対応のあり方を根本的に見直し、100%合格を目指す	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車整備系の絶対的な目標とする資格は国家1級・2級整備士資格であり、その他の資格は、学生のキャリアアップのために取得推進している。 開発・設計学科コースにおいては、学生個々の理解度確認と意欲向上のために取得推進を行っている	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

基準 4 教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職活動について、早期に内定を獲得する学生もいる中、就職活動に積極的でない学生も少なくない。入学当初からの就職意識醸成が必要である。</p> <p>各種試験合格率については、一級自動車整備士試験、および二級自動車整備士とも毎年ほぼ100%を達成していたが、平成30年度の一級合格率は前年度より大きく改善したものの、100%達成とはならなかった。また二級においては3名の無資格者が発生した。不合格者について、就職後、メンタルな面から企業で活躍できるか否かにも関係すると思われることから、100%合格を確実なものとする授業、登録試験対策が必要である。</p> <p>退学率については「0」を目標に、教員によるプロジェクトにより推進しているが、目標値3%に対し実績は3.2%となった。前年度より大きく改善されたものの、目標には届かない状況である。</p> <p>退学理由としては、進路変更、意欲喪失で65%を占める。また1年生が占める割合も81%と大きく、入学後のきめ細かな対応が重要である。留学生においては、入試での日本語理解力を見極めた事から退学者が削減した。退学は学生本人の将来に大きな影響を及ぼすこととなることから、教職員全員が学生個々へのきめ細やかな対応が必要である。</p> <p>社会的な活躍と評価については、企業からの募集も増加傾向であることから、卒業生が国内の自動車業界で必要とされる人材となっていることが伺える。その結果、卒業生に対する企業満足度調査において高い評価を得ている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職状況 <ol style="list-style-type: none"> ① 就職希望者の就職内定率100%継続 ② 就職対象学年学生、12月に就職100%達成 2. 各種試験合格率 <ol style="list-style-type: none"> ① 二級整備士資格無資格者3名 ② 一級整備士登録学科試験の合格率86%と100%は未達 ③ 一級自動車整備士資格100%合格に向けた取組みの全面見直し 3. 退学状況 <ol style="list-style-type: none"> ① 成績不振者への個別指導実施 ② 学生に興味を持たせる授業、仕掛け実施（基礎授業見直し） ③ 休学者の復学に向けたフォロー実施 ④ 留学生の日本語理解力向上に向けた留学生PRJの継続

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	学校斡旋で就職活動をする学生については、学生が希望する企業に就職ができるよう進路指導を実施し、責任をもって全員の内定を得ている。	H30年度も内定率は目標の100%を達成している。留学生(外国籍含む)も全員内定した。	課題なし	・科別進路状況 ・管理ボード
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	内定状況を教職員および学生が共有し、改善に導く体制を取っている。	日毎、月毎に就職状況について表及びグラフを作成し掲示することで共有化を図っている。また、求人状況においても同様に行っている。	課題なし	・科別進路状況 ・管理ボード

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生と企業との希望がマッチングする様、学生、担任、就職担当職員が三位一体で推進し、内定率100%を達成している。 留学生についても、100%を達成。	内定率は例年100%で推移しており、引き続き早期に学生が就職活動できる様支援していく。(30年度は12月達成) 現就職対象学年については、留学生が15名とさらに増加するため、更なる受け入れ先の確保が必要である。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	すべての資格試験合格率100%を目指す	姉妹校である関西校との共同による合格率向上施策実施 ・オリジナル問題作成と実施 ・放課後自己学習環境の整備	一級自動車整備士資格合格率100%を目標とした教育方法、サポートの見直しが急務。二級自動車整備士資格においても、ジーゼル・ガソリンそれぞれ100%達成方法の構築	プロジェクト報告資料
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	資格試験結果 100%管理	学生管理システムに登録、管理試験終了後、結果と検証、および報告実施	不合格者の卒業後の状況把握が不十分	登録試験結果報告

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格試験合格率は、数々の施策を実施してきた結果、近年合格率100%を達成できていたが、30年度は二級整備士試験においては3名の無資格を発生させてしまった。また一級整備士試験においても学科試験合格実績86%と前年度42.9%より改善は図れたものの100%合格は未達となる。試験難易度によらず100%合格を継続できる教育方法を早急に見直し、実行していく。	3年前より一級整備士試験の学科試験難易度が上がり、合格率が低迷していた。30年度は86%と大きく改善したものの100%には届いていない。試験難易度が上がっても合格できる授業及び、サポート体制構築が急務である。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	退学率削減 特に1年生の退学率削減が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前イベント実施 ・基礎授業内容見直し ・入学直後の就職意識醸成講話 ・基礎学力向上特別勉強会実施 その他 	退学率3%以下を目指す施策強化 30年度実績：17名3.2% (前年度より大きく改善)	
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	退学者情報の即時共有	教務部としての集計と、教職員が閲覧可能な場所に保存	課題なし	在籍人数表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学者増加は全教職員が認識し、同時に危機感も持っている。 特に1年生の退学者が全体の約8割を占めており、1年生の退学削減に向けた取組みの強化が必要である。教員全員で指導にあたっているが、教務部以外の職員も同様に学生個々へのきめ細やかな対応をすることで、退学を未然に防ぎたい	退学者を削減するために、生活・学力等に気を配り、担任・教務主任・課長・教務部長・教頭・校長と全員で情報共有・指導にあたっている。 30年度はクラス担任が休学者に対するフォローを強化し、殆どの学生が退学せずに復学する事となった。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業満足度調査実施	卒業生が入社から6ヶ月程度経過後、アンケート形式による満足度調査を実施 在校生は褒賞制度により、善行表彰を実施	課題なし	企業CS調査
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか		H o n d a のサービス技術コンクールにて毎年上位を占めている。今年度実施の世界スキルコンテストにも参加決定した。	課題なし	
4-22-9 在学学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	部活動 整備専門学校協会	部活動 自動車レース活動において、優勝及び上位入賞	課題なし	トロフィー 賞状
4-22-10 在学学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか		部活動 自動車レース活動において、優勝及び上位入賞	課題なし	トロフィー 賞状

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
企業CS調査において、卒業生は概ね一定の評価を頂いている。一部低評価の卒業生も存在することから、その検証と、在校生への対応に活かして行く 在校生は、部活動で全国大会等に参加し、好成績を収めている。	部活動では、通常授業では学べないことも学べ、さらに、積極性、協調性等も実践的に身につけることが出来ている。また在校生の善行表彰については、積極的に困っている方を助けるよう指導を強化している

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

沼田 昌彦

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関して、専任職員を配置し、常時学生への対応が行える環境としている。</p> <p>学生相談室（カウンセリングルーム）を設置、学生が教職員を通さず、相談が出来る環境としている。</p> <p>奨学金制度は活用可能としている</p> <p>学生の健康管理について、定期健診を行っている</p> <p>学生の生活環境への支援として、寮を完備している</p> <p>保護者との連携は、担任を通じて適時行っている</p> <p>課外活動について、後援会からの支援を基本とし、全学生に対しクラブ活動への参加を推奨している。</p>	<p>就職相談室を設け、各種情報を常時配信している</p> <p>外部からカウンセラーを招き、毎週火曜日を相談日としている。</p> <p>公の奨学金制度に加え、独自の奨学金制度も用意している</p> <p>学年ごとに年度初めに全員を対象に行っている。</p> <p>希望者には近隣アパートも紹介している</p> <p>学生の成績はもちろん、生活状況などについても適時連絡し、保護者と協力して学生指導を行っている</p> <p>現在は11種類のクラブ、5種類の同好会が学生主体で活動中であり、学生の要請に応え、新たなクラブ発足も可能としている。</p>

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	学生が求人情報などの詳細な情報を収集できる就職相談室を配備。専任の指導教諭が個々に進路指導を支援する体制を整備し進路先と連絡を取り合い、担任を交えて学生とのコミュニケーションを図る。無料職業紹介所の届出済。	学生が自由に出入りし、個別の相談ができるよう、常時就職相談室をオープンし、専任教諭を常備。個別の進路相談、就活指導、企業とのコミュニケーションを図っている。	体制は整備されているが、就職活動の着手が遅れる学生の早期発見と改善のための指導が課題であり、企業研究会において、該当しそうな学生のピックアップと指導計画を実施している。	
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	就職する意味、目的理解や早く就職活動をスタートさせ、モチベーションを持続させることが重要であるため、12月の賛助会企業セミナーまでに様々な研修を開催している	卒業前年度の10月に、就職キックオフ→企業研究会→企業セミナーを開催し、就活のモチベーションを養い、持続させ、12月の賛助会企業セミナーを実施している	課題なし	行事予定表
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	学生課職員が就職相談室に常駐しており、個々の対を取る体制をとっている。	随時行い適切なアドバイスを実施している また必要に応じ、クラス担任が個別相談を行っている	課題なし	
5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	授業にて、面接指導や履歴書の書き方を行っており、個別指導も実施できる体制を完備している	学内ガイダンス、企業訪問、採用試験において、事前に必要と思われる指導を行っている。	課題なし	事前指導 教育カリキュラム

本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、また賛助会企業とのコミュニケーションをはかることで多数の求人獲得に努力している。その結果、集められた求人票や会社説明会の情報は就職相談室に掲示し、担任の先生と情報共有しながら、本校学生ならば誰もが自由に閲覧でき、就職活動の指針として大いに役立っている

学生個人に焦点をあて、学生、担任、就職担当職員が三位一体となって就職体制を引き、毎年内定率100%を更新している。

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

沼田 昌彦

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	学生生活で出会う様々な事柄について、共に考え話し合いにより、充実した学園生活となる場の設定	学生相談室(通称:ほっとルーム)を設置している	課題なし	キャンパスガイド
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	学習上の悩みや人間関係、メンタル面について、安心して相談環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・専任カウンセリングの実施(毎週火曜日実施) ・教職員に対する講義実施(学生の特徴や思考等について) 	課題なし	キャンパスガイド
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生に限らず全学生同レベル、の相談体制	<ul style="list-style-type: none"> ・専任カウンセリングの実施 ・留学生プロジェクトの推進 ・留学会の定期的実施 	課題なし	キャンパスガイド

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
専任カウンセラーによる学生相談と学務室職員による相談体制を構築し学生対応を図っている。今年度は、専任カウンセラーによる教職員対象に学生の特徴や思考を講義頂き、学生へのきめ細かな対応のあり方を教職員一同再認識した。 また、留学生に関しては、留学生プロジェクトを立ち上げ、留学生支援計画を立案し定期的に留学会も開催し相談体制を更に強化した。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	・家庭の経済的事情に左右されることなく、学ぶ意欲旺盛な学生がより多くホンダ学園に入学できること	・ホンダ学園 賛助会奨学金適用 ・日本学生支援機構奨学金適用 ・学園独自の給付型奨学金適用	賛助会奨学金制度の原資拡大	奨学金説明資料 学生募集要項
5-25-9 学費の分納制度はあるか	・家庭の一時的な経済負担の解消となる制度	・半年毎の分納制度実施	課題なし	学生募集要項

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年度は、給付型奨学金制度の改定（進路変更奨学金の追加、留学生奨学金改定、本田宗一郎特待生の改定）を図り、より多くの学生に対する支援を充実した。また、年々、奨学金借入れ学生が増加しており、将来に向けた奨学金原資拡大への検討も図り、来年度は更に借入れ学生への対応強化を図っていく。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	定期的健康診断を実施し健康的に生き活きに学生生活を過ごしてもらおう	1回/年の定期健康診断(学生/職員100%受診)	課題なし	年度カレンダー
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	学生の健康管理面をバックアップする	校医(学校指定病院)によるアフターケア実施	課題なし	組織図 学校医委嘱受諾書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生・職員全員に対する定期健康診断を実施した。 また、授業開始前のホームルームで学生の顔色や元気等を見て健康状態を確認し、学生への対応を図っている。毎月、安全衛生委員会を開催し、産業医も入って頂き、改善の必要性があれば検討・改善推進を図っている。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	すべての部活動に公平に支援を行う (後援会からの支援を基本とする)	年初に活動計画、予算計画を提出。全部活動を取りまとめ、予算を決定、配分する。 学校内施設、設備使用の許可	部活度の内容により予算額が大きく異なる場合がある。 モータースポーツ系のクラブ車両のテスト走行が出来ない	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
日々の活動への支援はもちろん、全国大会への出場など、外部での活動にも金銭的、人的支援を十分行っている。	敷地の関係から、車両の走行テスト等が出来ないため、関連企業の協力を得て、休日にテスト走行等を行っている(HGA・寄居s s、RMSなど)

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔地学生に対する経済的負担解消 入寮を希望する学生対象に寮を用意 新生活における不安解消 	<ul style="list-style-type: none"> 大井寮入寮学生CS向上に向けた取り組みを実施 風呂場、トイレ、談話室空調の改修、WiFi環境の改善実施 談話室 TV、ソファ入替え 	入寮数の増加により、空き部屋が少なく、来期入寮生以外の学生に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> カレッジガイド 学生募集要項 学校ホームページ アパート情報

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生寮の最適な生活環境を図るためにフロアリーダー制を取り入れ、先輩が後輩の相談及び指導する体制を構築し、新入生の不安払拭への対応を行っている。</p> <p>一方、風呂場の改修や談話室のテレビ、ソファの入替え・ネット環境整備・防犯カメラ設置を実施した。寮のCSも対前年よりUPし、快適な場の提供が図れた。</p>	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか	学生が学業と学園生活を充実するために必要に応じその都度連携を行う	必要に応じて、保護者との面談や学生を交えて三者面談の実施	特に問題なし	キャンパスガイド

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出席状況、成績状況など、必要に応じ保護者に電話連絡及び、来校いただき、学生本人、担任、部課長を含め面談を行い、保護者との協力し、適切な指導を行っている。	状況に応じ、単元リーダー、教務主任、課長、部長などが三者面談を行う

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	沼田 昌彦
--------	----------	-------	-------

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会組織があること	同窓会役員会議の開催(2回) 同窓会からの寄付実施 (バスケット及び野球部ユニフォーム寄付、体育館トレーニング器具、モータースポーツ部への支援)	課題なし	同窓会組織体制図
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	・卒業生の就職先での活躍と現状確認を行い、就職先の卒業生への期待と学園との信頼関係の強化構築	1回/年卒業生の現況確認実施	課題なし	卒業生データベース

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
今期は、7月24日、9月12日に同窓会役員会議を2回開催。役員会議の中で、部同好会に対する寄付を判断頂き、バスケット及び野球ユニフォーム、体育館トレーニングルーム機器、N-ONE オーナーズカップ参戦への寄付を頂きました。また、同窓会ホームページも立上げ、OBの皆様への発信内容(学校トピックスやイベント等)を議論し、同窓会の活性化を図る推進に取り組みました。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育施設、設備等は、設置基準及び法令にも基づき整備されている。実習上、教室はもちろんの事、大小パソコンルーム、図書室、食堂、クラブハウス、体育館等設置をしている。</p> <p>又、学外での教育については、販売会社見学、企業実習、インターンシップ、および海外研修を行っている。</p>	<p>教育施設では、特に実習場は全て冷暖房完備でより良い環境である。また、教材車も定期的に入れ替えを実施した。四輪者では、フィット 3、インサイト、クラリティー等々の新型車を中心に入れ替えを実施。また、二輪車ではスーパーカブ入替え、グロム新規導入を行い、教材の充実は図られた。</p> <p>一方、実際に販売会社(ホンダ系列)で使用している設備、システム及び開発系企業が使用している CATIA も導入しており、より実践的な教育を受講する事ができ、就職後に企業からも評価を頂いている。</p> <p>又、学校外では、本田技術研究所をはじめ、販売会社、ティアワンメーカー様等の内定先企業に協力を頂き、インターンシップ教育の充実も図られた。</p>

最終更新日付	令和元年 5 月 1 日	記載責任者	山口 靖之
---------------	--------------	--------------	-------

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	・教育上に必要なものは、不足のないよう必要に応じて、十分に対応できるよう整備	事業計画で教育上必要な機器や設備は整備	課題なし	事業計画
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	・Honda の安全に対する基本的な考えである「安全なくして生産なし」に基づき整備	各施設、設備の専門業者との契約締結し定期点検実施	課題なし	事業計画
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	・事業計画に基づき施設・設備の更新を実行	投資計画通り更新している。 ・教室の机／椅子入替え ・	課題なし	事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今期は、国交省の監査があり、指摘はなかった。また、自動車整備系学科の設備は、国土交通省一種養成施設の認定基準を満たしており、特に維持めメンテナンスはもとより、3Sの徹底を図ってる。老朽化設備は中期的な投資計画を立案し計画的に更新・新規導入を図っている。</p>	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	対象学年 全学生対象 ・基本全員企業実習参加 ・インターンシップ全員参加	社会、現場を知る大きなチャンスと捉え、Hondaグループ、内定先企業に協力を得て、積極的に取り組んでいる。	課題なし 30年度は一級課程インターンシップについて、実施時期の見直しを行った	
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	企業様からの評価表100%回収 HGインターンシップでは評価表回収と報告会を実施	自動車整備系学科は100%企業様からの評価をいただき、企業実習、インターンシップの評価として管理している。 HGインターンシップは報告会を実施している。	現場経験という観点からは効果は高く、問題は無い。	企業実習、インターンシップ評価表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
一級課程については、国交省の規程に則し、認証工場にて全員実施。時間数に於いても、国交省基準を上回る時間を実施している。 HGインターンシップについては学園選抜を行い参加させている。普段経験出来ない事が経験出来ており、将来の進路にも大きく好影響を与えている	企業実習、インターンシップは授業の一環としている為、対象学年は全員参加

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

沼田 昌彦

6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	いつ何時の有事発生時に備えた防災体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制の整備 ・Hondaの防災体制との連携 ・有事発生時の学生、教職員の安否確認実施(年2回) 	課題なし	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制 ・防災計画 ・防災訓練概要資料
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会による、設備、機器等の安全面と機能面の確認と周知 	使用者への情報共有と周知徹底	課題なし	
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	<ul style="list-style-type: none"> ・Hondaの安全に対する基本的な考えである「安全なくして生産なし」に基づき整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全なくして生産なし ・3S（整理、整頓、清潔） ・ヒヤリ、ハットシート 上記3点を実習場等に掲示し周知徹底	課題なし	
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・保険加入により（建屋、設備、機器、書籍等）学園財産喪失最小限 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災保険加入（特殊包括契約） 	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	・有事発生に備え学生並びに教職員 の安全確保に努める	・平成26年度から、防災訓練を 年一回の実施から、4月と9月 に二回実施している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年2回の防災訓練の実施・学生、職員全員に対する安否確認を実施している。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

基準7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>募集活動において依然として18才人口の縮小均衡傾向にあることに加え、車離れによる進学希望者の減少、大学進学傾向及び高卒就職内定率の改善傾向が加わり、彼我競争激化の中、一層厳しい状況での学生募集となっている。</p> <p>高校訪問、オープンキャンパスの開催、ホンダグループの協力を得ながら、学生募集に取り組んでいる。</p> <p>今後、自動車整備士が不足することが予測される中、自動車業界に自動車整備士の更なる輩出を目指して行く。</p> <p>又、当校は、モノ作りを学ぶ自動車開発エンジニア科、日本の中でのオンリーワン学科でもある国際自動車整備科も併設しており、ホンダ学園の強みや良い所を積極的にPRし、一人でも多くの学生が入学していただける募集活動展開している。</p>	<p>募集活動としては、年間84回のオープンキャンパスやイベントを実施。特に2級整備士を増やすために販売会社と連携を図り、企業推薦制度の拡大に向けた取り組みを強化した。一方、本田技研及び本田技術研究所の協力も頂き、各種イベントへの参画及びオープンキャンパスを実施した。</p> <p><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ■南関東エリア(千葉・東京・神奈川)の募集人数拡大 ■指定校からの推薦拡大 ■O/C参加者歩留率向上 ■HC連携での2級整備士拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・HC進む学金返済支援制度導入 ・ホンダ会連携施策の展開 ・HC紹介/企業/推薦の拡大 ■『HPの充実と訴求』の強化 ■在校生CS向上/部活動強化

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

山口 靖之

7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	毎年、学校全体の方針を受けて学生募集戦略と施策を策定している	募集Grを主管部門として、ガイダンス、オープンキャンパス、問い合わせ、相談窓口、高校訪問、広報活動等の募集活動を実施。	課題なし	平成26年度方針書 学務室方針系統図
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	学校案内(カレッジガイド)は学生および保護者、高校の先生に「わかりやすく」を基本目標に設定している	カレッジガイド・学生募集要項の改定にあわせ、分かり易く作成した。また、高校3年生、社会人、大学生、保護者に訴求を実施	課題なし	学校案内E-ブック カレッジガイド 学生募集要項 学校ホームページ
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	外部からの学校相談・入学相談はすべて学生課で対応する組織体制である。	募集Grを学校相談・入学相談専任部門とし、志望者の問い合わせや相談に対応している。	課題なし	組織表
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	全学科定員を充足できる募集活動に努力する。	校内のオープンキャンパスのみならず、校外のオープンキャンパスも開催。	南関東エリア学制の拡大 オープンキャンパス参加者の志願数拡大	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生募集活動は、すべて学務室中心に専属職員で組織化されている。募集活動の質は年々向上している。今後は、教務部と連携して教育の質を向上していく。	募集活動は、外部環境の変化等にも大きく左右されるが、ホンダ学園の価値を高め、入学者の安定確保を図っている。

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

山口 靖之

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	就職実績、就職先企業情報、卒業生の活躍情報などは、志願者や保護者に対して、さまざまな媒体や活動を通じて全面に打ち出しをしている	高校訪問時の提供資料や、ホームページ、カレッジガイド、各種進学媒体、オープンキャンパスでの説明などで積極的に紹介している	課題なし	学校案内パンフレット 保護者の皆様へ 学校ホームページ オープンキャンパス開催時の説明資料
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	オープンキャンパス参加学生への説明及び個別相談会での成果確認を図っている	個別相談会での確認実施	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育の成果は、確実に出ており、企業様からも一定の評価を頂いている。 また、就職に関しても一発内定率が80%以上と高い。但し、資格取得に関しては、無資格者が4名発生したため、引き続きの企業様と連携を図り、継続フォローを実施する。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学生募集要項に記載し明確な基準を設けている。AO入試はアドミッションポリシーを明確にし、個別面談実施者の中から厳選し選考。	推薦選考・一般選考ともに入試選考基準に基づき、入試選考委員会が選考を実施している。	課題なし	学生募集要項 入試規定 入試選考基準
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	毎年度ごと数値を示すデータを作成しDB化している	入学選考基準、出願者数、合格者・不合格者数・辞退者数は明確である。	課題なし	入試出願状況一覧表 学園概況表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は、適正かつ、公平な基準に基づき実施されている。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	教育内容や教育経費、他校情報をもとに適正に改正を行うものとする。	妥当と認識している。	諸雑費の見直し 消費税率UPへの対応	「専修学校ガイドブック」
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者について、入学前に授業料を納付済みであれば、全額返金している。	授業料の返還は適正に処理している。 (返還対象学生なし実績なし)	課題なし	
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	本校創立からの全科の学納金に関する情報を記録保管している。	適正に把握／保管している。	課題なし	「学納金推移一覧表」

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
特になし	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>当面の財務基盤等は安定している状況ではないが、効率的な学校運営となる様に事業計画を立案、実施中である。</p>	<p>特になし。</p> <p>参考資料：主要財務数値、予算書、補正予算書、監査計画書</p>

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

嶋津 和真

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	帰属収支黒字化、自己資金による学校運営をする。	収支改善計画の立案を行い、実行している。	経費削減施策の検討が必要。	収支改善計画
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	財務システムにより、正確に把握する。	過去の財務データ一覧表により、状況分析が可能となっている。	課題なし	計算書類 総勘定元帳 予算管理表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
収支改善計画を立案し、施策を実行している。 状況に応じ、新たな経費削減施策も継続検討する。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-39-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会で承認可決された計画案に沿って実行する。	計画に沿って実行している。	課題なし	予算書、補正予算書
8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	計画に従って妥当に執行する。	予算管理システムによる内部統制を行っている。	課題なし	予算細目実績表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会で承認を受け、計画案に沿って実行している。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-40-5 財務について会計監査が適正に行われているか	外部監査人による監査を実施する。	公認会計士により、毎年「当年度事務処理状況及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	課題なし	監査報告書
8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	責任体制を明確にし、監査を妥当に行う。	監査計画による期中、期末監査を実施している。	課題なし	監査計画書 監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部監査人による監査を実施している。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	積極的な公開の体制を構築する。	平成29年度ホームページにて公開している。	課題なし	
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	法令に基づいた財務情報公開の形式を整える。	平成29年度ホームページにて公開している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
	平成30年度については理事会承認後に公開予定。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、学校教育法第3条及び第128条の規定に基づき定められた「専修学校設置基準」と自動車整備士技能検定規則第6条の18に定める自動車整備士養成の第一種養成施設「指定基準」を厳正に遵守し、適正かつ適切に学校運営を行っている。</p>	

最終更新日付

令和元年5月1日

記載責任者

嶋津 和真

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され適正な運営がなされているか	該当する法令等が遵守され適正な運営を図る。	監督官庁(文部科学省と国土交通省運輸局)の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなされている。	課題なし	「専修学校設置基準」
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業(株)の該当する諸規則と、学校法人に関する法令等の啓発活動を実施する。	本田技研の行動規範を配布した。行動規範の配布に加え、職員会議での周知活動等を年間を通して実施した。	課題なし	本田技研工業(株)行動規範

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。</p> <p>ただし、職員による資金横領(奨学金)が発覚し、検証委員会を立ち上げて対応策を理事会に報告し承認を受けた。</p>	<p>監督官庁である文部科学省と国土交通省運輸局の厳正な指導の基に、学校運営が適正になされている。</p>

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する。	教職員の転入時に、個人情報取扱い者教育を実施している。また、電子メモリー機器は、パスワード機能付で対応している。	課題なし	
9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する。	教職員の転入時に個人情報取扱い者教育を実施している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報管理責任者、個人情報取扱管理者を指定し、責任体制を明確化している。	機密ゾーンを設けて出入りできる範囲を制限し、機密の徹底を図っている。

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	自己評価の定期的な改善を進める。	定期的に確認することにより結果として自己点検評価のレベルアップに繋がっている。自己点検自己評価報告書を使用している。	課題なし	自己点検自己評価報告書
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検・評価の方針を確立する。	自己点検・評価の意義を意識して日頃の活動を進めている。自己点検自己評価報告書を使用している。	課題なし	自己点検自己評価報告書
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	全教職員に周知する。	自己点検自己評価報告書を使用	課題なし	自己点検自己評価報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・評価定着が、今後の課題である。同時に毎年見直しを行い、精度を上げて学校運営における効果的なツールとする。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	ホームページにて公開する。	ホンダ学園ホームページにて公開している。	課題なし	
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	基本方針は確立されている。	ホンダ学園ホームページにて公開している。	課題なし	
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	学校関係者評価委員及び教職員に対して公開を正確に伝える。	学校関係者評価委員会及び方針説明会にて、公開を説明した。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
公開方針・方法等の検討を行い、ホームページにて公開をした。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------	-------	-------

基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>当校は「社会貢献の心と行動力を育む」を育成方針に掲げており、学生の自主的なボランティアや安全啓蒙活動などには協力を支援を行っている。</p> <p>寮生を中心として地域の清掃や美化のボランティア活動を行っている。また、日々の清掃活動の一環として、教職員も含め学校周辺の清掃も行っている。</p> <p>地元の市の要請に応じ、学校施設の提供、教員の協力を行っている。また、小中学校の職場体験等にも応じている。</p>	<p>登校日の地域清掃はもちろんであるが、休日の寮近隣の清掃活動や、国道の中央分離帯の美化活動の一環として、清掃と草花の植え込みから育成を行っている。</p> <p>交通事故などに遭遇した場合、救急救命活動を積極的に行えるよう、ファーストエイドの教育も行っており、実際に救護を行った学生に対しては学内表彰を行っている。</p> <p>今期は、ふじみ野市の要請を受け、エコパで環境イベントを実施。 →学生達による燃料電池自動車（FCV）の勉強会を実施した。</p>

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	小中高からの要請には全面的に協力する。	自転車の構造講座（小学生） 小学校企業見学	課題なし	
10-46-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	市が行う生涯学習事業には全面協力する。	自動車の日常点検講座として、 ふじみ野市の「公開講座」を開催。	課題なし	
10-46-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	市や団体が主催する体育業に関し、体育館使用を許可する	バスケットボール大会 ダンス大会 等	課題なし	
10-46-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	協力要請があれば検討する	国際協力機構等からの要請で、 サウジアラビア、コンゴ民等の 学校関係者の見学受け入れ	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	交通三悪撲滅 喫煙対策（未成年含む） 環境 福祉	交通安全キャンペーン実施 世界禁煙デーポスタ掲示 環境講話実施 福祉講話実施	課題なし	
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	交通三悪撲滅 喫煙対策（未成年含む）	安全運転教育充実 1年次2日間 2年次3日間 交通教育センターにて実施 喫煙場所の限定/禁煙タイム実施 月1回の禁煙推奨日設定	学生の交通三悪交通事故ゼロ化	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車業界に就く者として、交通事故、違反は一般の人たちより重い。啓蒙、指導する立場となることを自覚させるために多くの施策を行っている。また、喫煙については、喫煙可能場所を学内1か所限定し、それ以外の喫煙は禁止している。また、禁煙タイムも設け実施している。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学生自発ボランティアへの支援は可能な限り行う	地域清掃、254花の会、ふじみ野市環境イベント、埼玉県自動車販売店協会主催の駅清掃に参画	課題なし	
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	多大な貢献や活動をした学生には報奨を行う	貢献度大の場合は、部長表彰、又は、校長表彰を実施 (今期表彰はなし)	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今期は、学園周辺地域の清掃、R254花の会、ふじみ野市環境イベント、埼玉県自動車販売店協会主催の駅周辺の清掃への参画等を実施した。 学生ボランティアの意識が年々高まり、学生自ら参画する学生が大幅に増加した。	

最終更新日付	令和元年5月1日	記載責任者	山口 靖之
--------	----------	-------	-------